

連携・協働の力・タ・チ

令和元年10月16日発行 福島県教育庁会津教育事務所



村主催の企画展示に“中学生も、参加！”

湯川村教育委員会・湯川中学校



湯川村教育委員会は、このほど「桜町遺跡の弥生土器里帰り展」を、村役場の村民ホールで開催しました。

“米どころ”湯川村のルーツとなる、弥生時代の大集落「桜町遺跡」の弥生土器15点が、福島県文化財センター白河館『まほろん』から湯川村に里帰りし、展示されました。その際に、湯川中学校の1年生の生徒が製作した石包丁の展示コーナーも設けられました。

「桜町遺跡の弥生土器 里帰り展」の会場

毎年湯川村の小中学校では、農業体験学習を実施しています。新しい時代に“米どころ”湯川村にちなんで、弥生時代特有の農具「石包丁」に注目し、児童生徒自らの手で道具を作りました。さらに、秋の稲刈りで実際に使ってみることで、現在の稲刈りと違う弥生時代の農業を学習できるよう、学校の先生と一緒に考えました。その結果、多くの生徒が、道具を作る難しさや大変さを実感し、昔の人々への尊敬の念を持ったようです。



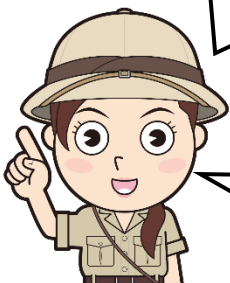
【石包丁で稲刈り体験】

弥生時代の稲刈りは“穂首刈り”です。いつもの稲刈り体験とは刈る位置が違います。自分が作った石包丁の切れ味を、実際に使って確かめました。

【石包丁の展示コーナー】

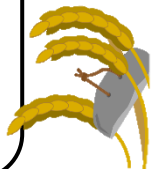
生徒自らが村民ホールに向かい展示することで、成果を発表する喜びを感じました。

中学校の文化祭にて製作した石包丁について成果発表します。



湯川村教育委員会社会教育係
梶原 文子さんのお話

今自分が住んでいる身近な歴史遺産、伝統的な行事や芸能を知ることには自分の生まれ育った地域を知ることです。将来大きく羽ばたく若者の「生きる力」の原動力になるよう、地域の素材を最大限に生かし、学校と地域住民と一緒にできる体験や学習の機会を広げるために、地域住民の皆様方と連携して学校教材の開発・提供することを考えています。



この実践から学ぶポイント！

☆ 中学生の学習成果を公共施設に展示し、広く地域住民に見ていただく場を設けることで、学校教育活動と社会教育事業の双方に対する関心を高めるとともに、地域の歴史を知ることにつながっています！

